

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>4.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.39</b>			<b>4.2</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.6</b>	0.15	-	-	3.6
<b>1.1 騒音</b>				<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		目標騒音レベルが40<[騒音レベル] 45dB		4.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>		天井、床に吸音材(事務室全般、会議室、議場等)		<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>4.0</b>	0.35	-	-	4.0
<b>2.1 室温制御</b>				<b>3.9</b>	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		窓システムASC:0.3程度,U=3.0(W/m <sup>2</sup> K)程度,外壁U=1.0(W/m <sup>2</sup> K)程度		4.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		室ごと、ゾーンごとに系統が分かれており、個別に制御が可能		5.0	0.37	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>		床空調を1Fホール部分に採用		<b>5.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>4.0</b>	0.25	-	-	4.0
<b>3.1 昼光利用</b>				<b>3.8</b>	0.30	-	-	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		集光装置の設置、明るさセンサー		5.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御		庇の設置、ブラインドの設置		4.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策				-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
<b>3.4 照明制御</b>		センサーによる照明制御		<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気環境</b>				<b>4.8</b>	0.25	-	-	4.8
<b>4.1 発生源対策</b>				<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F 建材を全面的に採用。トルエン、キシレンの濃度測定		5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>				<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量		換気量30m <sup>3</sup> /h人を確保		4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上		5.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		汚染源と異なる方向かつ6m以上の距離を確保		5.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		CO <sub>2</sub> 監視設備の設置、管理マニュアルを整備する。		5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物内は禁煙		5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-	4.1
<b>1 機能性</b>				<b>3.8</b>	0.40	-	-	3.8
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				<b>3.3</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		OAフロアの設置		4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.34	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>				<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		執務室天井高を2.7m以上とし、横連窓で開放感のある開口部		4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		照明計画と内装計画を一体で計画、インテリアCGでの事前検討		5.0	0.33	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>				<b>4.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		メンテナンスデッキを兼ねた庇の設置。庇による汚れ防止		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		清掃用具庫を適切な場所に整備		5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>4.6</b>	0.31	-	-	4.6
<b>2.1 耐震・免震</b>				<b>5.0</b>	0.48	-	-	
1 耐震性		重要度係数を1.5とした構造計画		5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		免震構造の採用		5.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>3.9</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準、劣化の軽減に基づき65年を想定		5.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		外部露出ダクトは全てガルバニウム鋼板製		5.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B:給水)VLP、汚水排水)VP、雑排水)VP、冷温水)HT		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			5.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	災害時を見据えた系統区分、対策及び熱源の分散化を行っている	5.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	災害時を見据えた系統区分、対策を行っている	5.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	非常用発電機を、最上階に設置	5.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震Sクラスを満たしている	5.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	災害時を見据えた対策を行っている	5.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			4.1	0.29	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高3.9m以上としている	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ	基準階(8階)の壁長さ比率 = 0.18	4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			4.6	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性	仕上材を痛めないで空調配管の更新ができるように配慮	4.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性	仕上材を痛めないで給排水管の更新ができるように配慮	5.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性	仕上材を痛めないで電気配線の更新ができるように配慮	5.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めないで通信配線の更新ができるように配慮	5.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性	仕上材を痛めず、建物機能を維持でき、設備機器の更新ができる	5.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース	熱源機械室におけるバックアップスペースの確保	4.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		藤沢の波をイメージした水平ルーバーのデザイン	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	屋上庭園の設置	5.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	敷地内緑化、煙突を屋上(GL+10m以上)の位置に設置	4.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物の熱負荷抑制		BPI=0.849	4.5	0.28	-	-	4.5
2 自然エネルギー利用			4.0	0.21	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	自然換気システムの採用	4.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電パネルの設置	4.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率機器の採用	4.4	0.31	-	-	4.4
		集合住宅以外の評価(ERRによる評価)	ERR換算値=-24.1%	4.4	-	-	-
		集合住宅の評価	-	-	-	-	-
4 効率的運用			5.0	0.21	-	-	5.0
4.1	モニタリング	BEMSの採用	5.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制	設備機器の維持管理体制確立、年間エネルギー消費量の目標設定	5.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水	節水型衛生器具	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用設備の導入	4.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.63	-	-	4.3
2.1	材料使用量の削減	プレストレスコンクリートを採用、免震構造を採用	4.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.24	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	グリーン調達品目:再生木質ボード(天井材)	5.0	0.20	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	エコークビニル床材(床)、再生木デッキ(屋上庭園床)、磁器質タイル	5.0	0.20	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.05	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	乾式の外装材、LGSやパーティションによる間仕切り壁	5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	-	3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用	化学物質排出管理促進法の対象物質を含まない建材	5.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	-
1	消火剤	窒素ガス消火	4.0	0.33	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	-	4.0	0.33	-	-	-
3	冷媒	-	3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	雨水流出抑制に加え、雨水を貯留し再利用をしている	4.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	建物地下1階内にバス転回スペースの確保	5.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみの分別、ごみ置き場の設置、ごみ減容化を促進する掲示物	4.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	-
2	振動	-	-	-	-	-	-
3	悪臭	-	-	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制	-	3.0	-	-	-	-
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境より著しく過剰な照明としていない	5.0	0.70	-	-	-
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-